

- 「特色」 多様な海浜環境 塩の歴史・文化
- 「強み」 観光利用と地域利用 市民の期待・機運

〈立地特性図〉



〈空間・利活用構成別のリノベーション目標（案）〉

「軸」：公園を象徴する空間として魅力化

- ① 海へのつながりをドラマチックに演出する「海への眺望軸」
- ② 2つの湖や特徴ある公園施設・広場を横断して漁港へと繋がる「公園文化軸」
- ③ 2軸の交差部にあり、視点場としての魅力を高める「太陽の丘」

「際」「門」：赤穂海浜公園らしい海沿いの空間・接点部の創出

- ④ 海への眺望を確保し、海的环境と園内環境をつなぐ「海の際」と、地域と公園をつなぐポイントとなる「門」
- ⑤ 生物の生息地としても貴重な環境であり、活用と保存のバランスに配慮する「湖の際」

「環」：公園利用を支えるサービス幹線

- ⑥ ランドトレインに加え、移動販売サービス、キッチンカー出店などの展開を見据えた「パークロード」
- ⑦ 施設間を有機的に繋ぐ、休憩・遊び機能を持つ「ロードサイド空間」

「地」：多様なパークライフの舞台となる広場

- ⑧ 遠足、地域の日常的な憩い、親子での遊び、レクリエーション等の多様なシチュエーションで使いやすい、個性ある広場空間

- ⑨ 「テーマ型施設」：利用目的が明確な施設

立地環境を活かした
リノベーションの目標像

- 赤穂海浜公園の持つ多様な海浜環境を活かした、海の魅力を体感できる公園
- 観光利用から日常利用まで、3世代みんなが楽しめる公園

〈空間・利活用の構成図〉



“海に開いた帯状の緑地”を新しいシンボルに

- ・地域住民の日常的な散策利用の多い海岸沿いの遊歩道と、観光客や若者層に人気の高いヤシの並木道の接点部である「海の間」を中心に、海沿いの約1kmの緑地を魅力化。
- ・歩きながら海の景色をダイナミックに体感できる緑地帯に、子どもの水遊び場や親の見守りスペース、海を眺めながら飲食できるスペースなどを複合的に組みこむ。
- ・シンボルを「点」から「線」へ。機能を複合化し、整備・修復なども区間毎に可能とする。

地域住民の日常利用の多い遊歩道やビーチ

赤穂市の「海辺の観光レクリエーションゾーン」の拠点となる魅力形成を目指す

基本方針

子どもを育み、3世代が楽しめる公園づくり

“子ども・3世代”

公園資源を活かし、地域の活性化をもたらす公園づくり

“自然環境”

“塩の歴史”

多様な主体の参画と協働で進める公園づくり

“観光利用と地域利用”

“市民の期待・機運”

目標像

「軸」
公園を象徴する魅力的な空間

- ①海へのつながりをドラマチックに演出する「海への眺望軸」
- ②2つの湖や特徴ある公園施設・広場を横断して漁港へと繋がる「公園文化軸」
- ③2軸の交差点にあり、視点場となる「太陽の丘」

「際」「門」
赤穂海浜公園らしい海沿いの空間・接点部

- ④海への眺望を確保し、海の世界と園内環境をつなぐ「海の際」と、地域と公園をつなぐポイントとなる「門」
- ⑤生物の生息地としても貴重な環境であり、活用と保存のバランスに配慮する「湖の際」

「環」
公園利用を支えるサービス幹線

- ⑥ランドトレインに加え、移動販売サービス、キッチンカー出店などの展開を見据えた「パークロード」
- ⑦施設間を有機的に繋ぐ、休憩・遊び機能を持つ「ロードサイド空間」

「地」
多様なパークライフの舞台となる広場

- ⑧遠足、地域の日常的な憩い、親子での遊び、レクリエーション等の多様なシチュエーションで使いやすい、個性ある広場空間

「テーマ型施設」
子どもを育み集客力のある施設

- ⑨赤穂海浜公園らしい歴史や環境を活かした公園施設や魅力ある遊戯施設などの、利用目的が明確で、テーマ性を持った施設

リノベーション方針

立地環境を活かしたリノベーションとその一環となる新規施設導入 <県整備による展開>

“海に開いた帯状の緑地”を新しいシンボルに

1

●南北軸は「海への眺望軸」として、特に観光目線でドラマチックな景観変化を楽しめる軸線とする。

2

- ヤシ並木の強化など、「海の門」に向けた軸線を強調する。
- 舗装パターンやバナー設置などの検討により他との差別化を図る。

●「太陽の丘」は視点場としてのシンボル性、景観のあり方を検討する。

●東西軸は「公園文化軸」として、多様な施設をつなぎ、歩いて変化を楽しめる軸線とする。

○植栽を整理し、周辺施設へのアクセスや視野の繋がりを確保する。

○港からのアクセスが可能なゲートを設ける。
※要調整

●海の世界との接点部について、場所の特性を活かし海の魅力を体感できる施設整備や、関係を隔てるフェンス撤去などの整備を行う。

●現在緑の壁のようになっている植栽帯について、現況の樹木密度や樹種構成を調査し、海への眺望を確保し、憩いの場を内包した、多孔質な緑へと導く整備を行う。

●赤湖・白湖周囲は園内各所から眺められる湖際の伸びやかな景観が美しく、生物の生息地としても貴重な環境である。活用には保全のバランスに配慮する。

赤湖・白湖 : 機能の維持・保全

3

●広場周囲の植栽帯について、現況の樹木密度や樹種構成等を調査し、視線を通す明るい樹林へと導くことや、緑陰での利活用が行いやすい樹林整備を行う。

わんぱく広場 : 機能の更新

県民の森 : 機能の維持・保全

●「兵庫県立赤穂海浜公園リノベーション計画(案)」の推進により、魅力的で・利用快適性の高い施設づくりを進める。

塩の国 : 機能の更新

わくわくランド : 機能の魅力向上

オートキャンプ場 : 機能の維持・保全

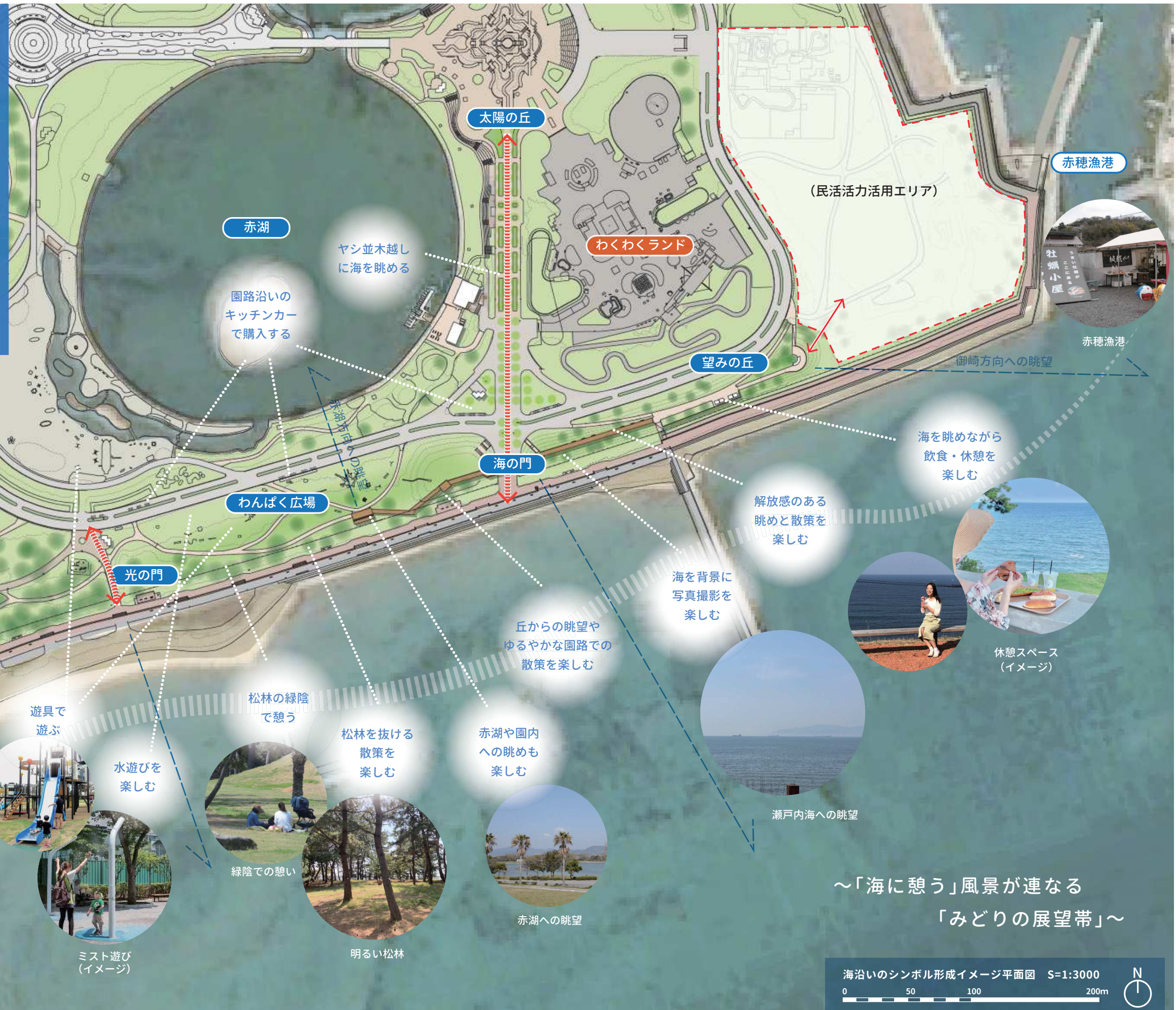
テニスコート : 機能の維持・保全

駐車場 : 機能の更新

<民間活力導入による展開>

点から線へ。
海と人が主役の新たなシンボル。

現在は海との関係が希薄になっている海沿い空間を、シーサイドウォークを楽しめる「みどりの展望帯」へと導き、多様な機能を複合的に組み合わせることで、3世代が思い思いに海に憩う風景そのものがシンボルとなることをめざす。



～「海に憩う」風景が連なる
「みどりの展望帯」～

海沿いのシンボル形成イメージ平面図 S=1:3000

0 50 100 200m



<現況写真> 海と公園を隔てているフェンスや中木群



<整備イメージ> ※松林は10年後の将来イメージ

① 御崎方面まで見渡せる展望・休憩スポット



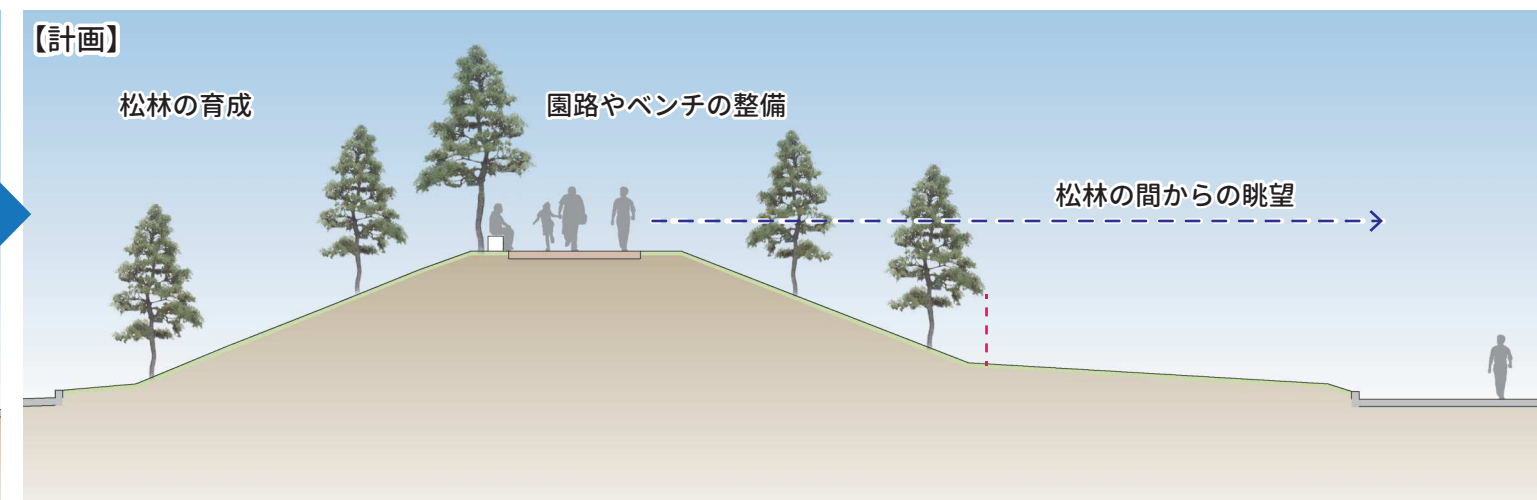
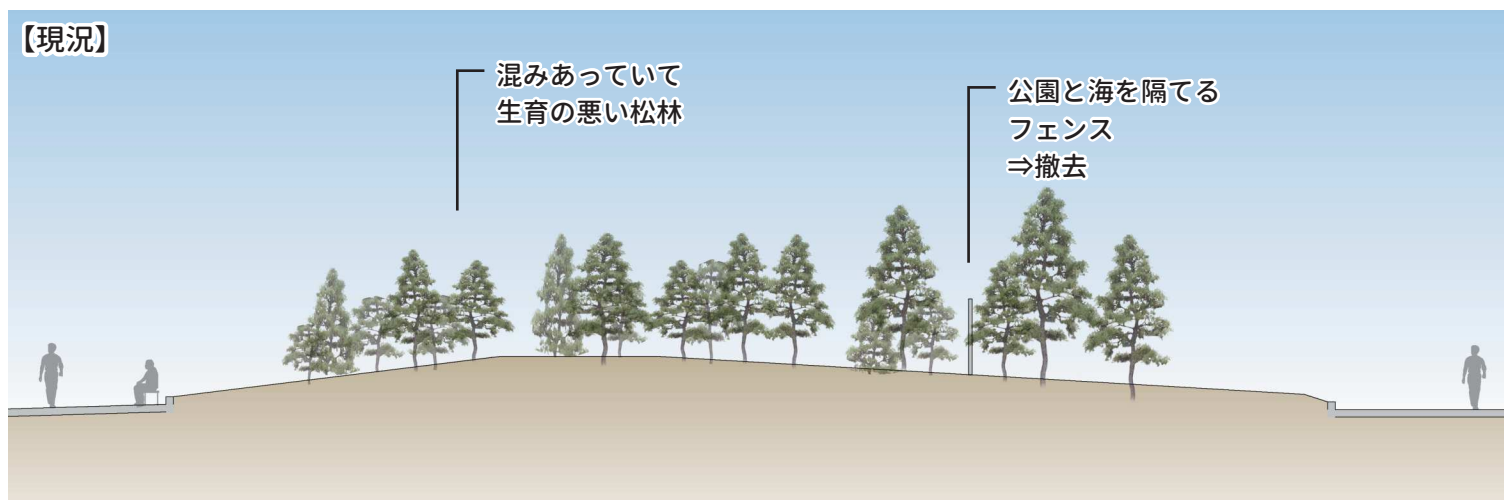
② 休憩所や木陰のベンチでくつろげる展望・休憩スポット

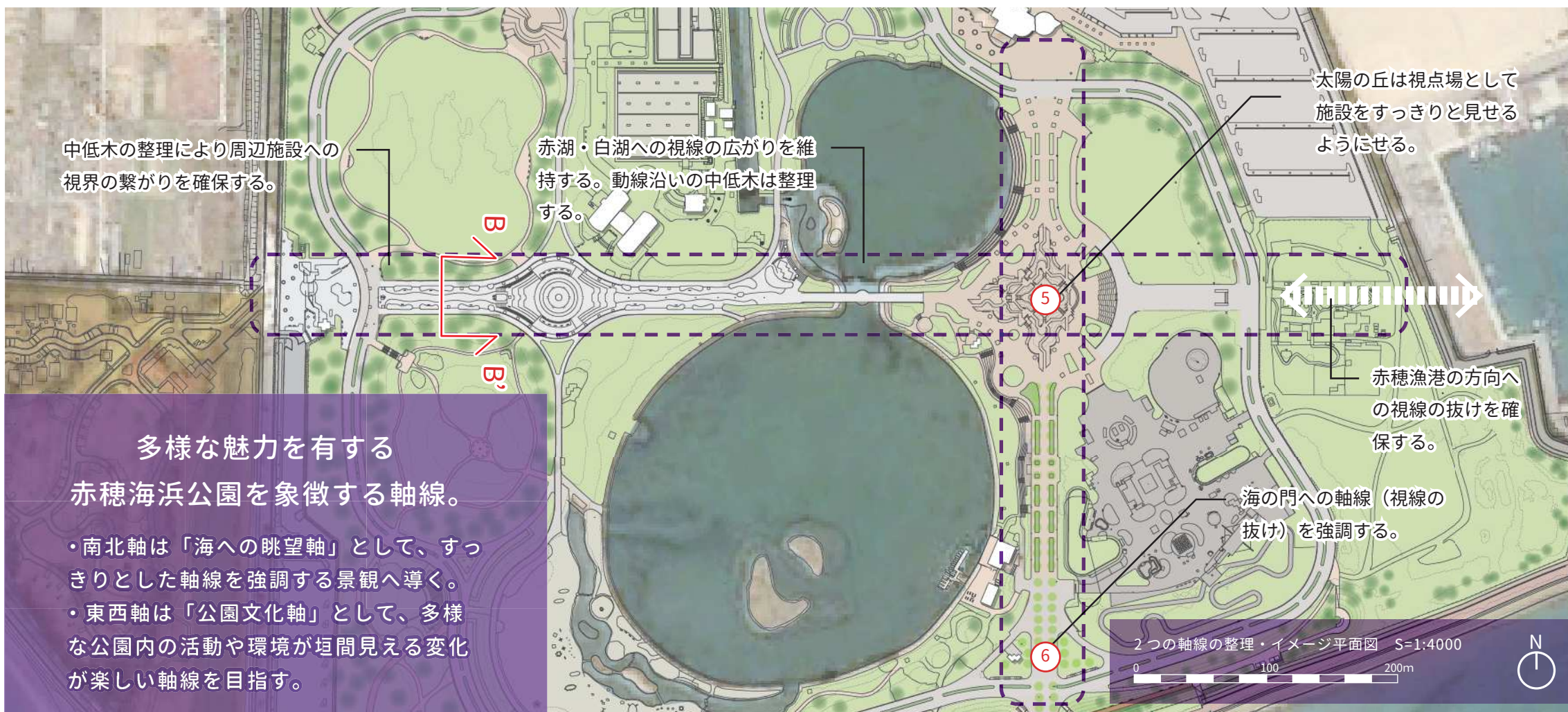


③ 海風を感じながらゆっくり歩ける散策道



A-A' 断面図 S=1:200

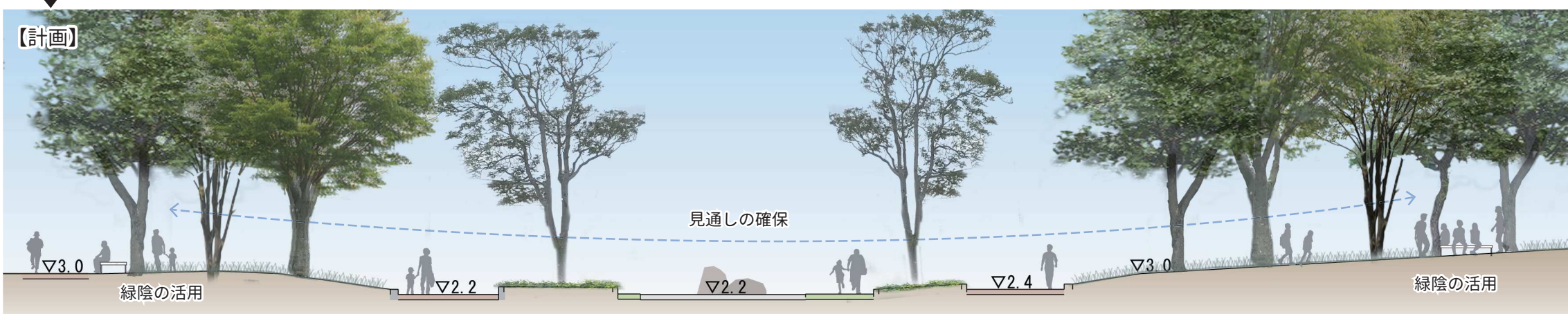




多様な魅力を有する
赤穂海浜公園を象徴する軸線。

- ・南北軸は「海への眺望軸」として、すっきりとした軸線を強調する景観へ導く。
- ・東西軸は「公園文化軸」として、多様な公園内の活動や環境が垣間見える変化が楽しい軸線を目指す。

B-B' 断面図 S=1:200



⑤

現在は緑と一体化して山のように見える太陽の丘は、中低木を整理することで石積みや階段などの構造物を際立たせ、園内を見渡せる貴重な「視点場」としての存在感を出す。

【現況】



【計画】



【現況】



【計画】



⑥

南北軸はヤシ並木で軸線を強調し、海への繋がりを妨げるオブジェおよびヤシの木は撤去する。軸線上は周囲と異なる舗装とし、海との繋がりを強調する。

【現況】



【計画】

